

# 低迷が続く中、企業間格差や人手不足が散見

## 11月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

### 概況

国内外の景気減速懸念は引き続きくすぶっており、企業間格差の広がりも気になるところ。一部業種の人手不足は続いており、対応に苦慮している状況は変わらず。また、マイナンバー制度への対応にも四苦八苦している。

製造業	食料品		パンは客単価上がらず、インバウンド消費の期待もできない。製麺は生・乾麺とも企業間格差が散見される中、一部荷動きに改善が見られる。酒造は純米酒・純米吟醸酒が好調、普通酒が大幅に減少している。
	繊維・同製品		桐生織物は輸出向けの引き合いは多少あるが成約には至っておらず、和装織物は非常に厳しい状況である。伊勢崎織物はイベント出展での認知度アップに期待している。繊維製品は婦人・紳士服ともに売上は不振である。
	窯業・土石製品		生コンは大型案件がなく大幅に売上が減少している。コンクリートブロックは職人不足で着工できない現場が散見される。コンクリート製品は公共・民間工事ともに受注が低迷し厳しい状況である。砕石は販売価格上昇も売上減少が続く。
	機械・金属		引き続き中国や新興国の経済動向を不安視している。太田機械金属は富士重工関連の下請け企業においては人手不足感が強く、人材派遣等社外労働力に頼らざるを得ない状況である。鍍金は売上高が前年比1割程度減少している。
	その他の製造業		紙加工品の販売価格は下落しているが、古紙の相場は落ち着き、原材料の値上げの動きはない。印刷は稼働率が上昇し受注も好転傾向だが企業間格差の広がりが見られる。ゴムは例年並みに推移している。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は消費税率の軽減税率導入を懸念している。太田卸団地は建築材料卸売業が伸び悩み状態であり、売上・収益状況ともにやや悪化傾向である。農産物卸は暖かい日が続き、葉物を中心に価格が暴落している。
	小売業		生花小売の市場単価は過去5年間で最も低く推移している。燃料小売はガソリン価格が前年比30円/ℓ安が続く。商店街は比較的暖かい日が続いたため、冬物季節商品の動きが低調、冬物値引きセールを早める動きが見られる。
	サービス業		温泉旅館は外国人観光客が増加傾向である一方、団体客の減少が見られる。不動産取引は富士重工関連による良好な雇用環境や行政の子育て支援策等により太田市への転入が増え、取引は堅調に推移している。
	建設業		建築工事は従業員や下請け業者の確保に苦慮している。電気工事の受注は増加しているが、人手不足が継続しており工期の厳守に苦労している。塗装工事は職人単価の落ち着きや突貫工事の減少により収益は安定している。
	運輸業		野菜は豊作で輸送量が増加している。原油価格は下落しているが、元売り各社の意向により軽油価格は前月比値上がり傾向である。小口輸送は什器・医薬品等の輸送が増え、売上・件数ともに増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

### 県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 110.8(前月比▲0.4%)「県統計課・10月」
- 販売電力量 111,704万KWh(前年同月比▲4.2%)「東電群馬総支社・10月」
- 住宅着工戸数 1,306戸(前年同月比+29.7%)「県建築住宅課・10月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.81倍・有効1.26倍「群馬労働局・10月」
- 大型小売店販売額 197億円(前年同月比▲5.9%)「経済産業省・10月」
- 消費者物価指数(全国) 103.9(前年同月比+0.3%)「総務省統計局・10月」  
(鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)